東庭園（長沼町）

防風林に囲まれて、多彩な庭園樹が植えられている。

開拓の暮らしと共に育てられた農家庭園

この庭園は、1896(明治 29) 年に入植した東重次郎氏が、長い年月をかけて造り上げたものである。

厳しい環境から暮らしを守るために、屋敷の周囲に配置された防風植栽は、極めて機能的であり、かつ美しい。冬の北西風を遮るために、トドマツを主体とした厚みのある樹林を形成し、馬追山を越えて吹き付ける春の強風には、高さ 20 mを越えるトドマツの防風林で遮り、その他はヒバの大刈り込み生垣としている。

庭園内には、百種を超える多彩な樹木が植えられており、それらが長い年月、丹精を込めて形が作られてきていることに、氏の愛情を見ることができる。特に高名な庭師が手がけたものではないが、日々の生活に潤いをもたらしてきた農家庭園として、高く評価される。

平屋の建物前は、落ち着いた植栽に

概　要

名　　称	東庭園
所 在 地	長沼町東 6 線北 3 番地
管 理 者	長沼町
規　　模	1.2ha
種 別 等	庭　園
整 備 年	1896(明治 29) 年～
開 設 年	1975(昭和 50) 年町に寄贈後公開

1967(昭和 42) 年に農林省「家屋屋敷林コンクール」入選

防風植栽とヒバの大刈り込み

公益社団法人日本造園学会北海道支部
Hokkaido Branch,Japanese Institure of Landscape Architecture

北の造園遺産　0724.indd　21　2013/07/24　16:24:39